



## [野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

## 3. 露地及び促成ナス圃場における天敵温存植物の最適な植栽位置

## [要約]

露地ナス圃場ではスカエボラを、促成ナス圃場ではスイートアリッサム及びスカエボラを最も日当たりの良い畝端に植栽した場合、株間や畝肩に植栽した場合に比べて開花数が多くなる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

## [背景・ねらい]

スイートアリッサムは飛ばないナミテントウやスワルスキーカブリダニ、スカエボラはこの2種の天敵に加え、ヒメハナカメムシ類を温存することができる。これらの天敵は植物の花粉等を餌資源として定着するため、開花数の維持が重要となる。

そこで、露地及び促成ナス圃場において、これら植物が最も旺盛に開花する植栽位置を明らかにする。

## [成果の内容・特徴]

1. 露地及び促成ナス栽培の両作型において、畝端の照度は株間及び畝肩に比べて非常に高い（図1）。
2. 露地ナス栽培において、畝端に植栽したスカエボラの開花数は定植後から増加し続け、8月をピークに減少するが、株間及び畝肩に比べて非常に多い（図2）。
3. 促成ナス栽培において、畝端に植栽したスイートアリッサムの開花数は、定植後1か月程度は株間及び畝肩とほぼ同等に推移するが、11月以降株間及び畝肩に比べて多くなる（図3）。
4. 促成ナス栽培において、畝端に植栽したスカエボラの開花数は11月までは株間及び畝肩とほぼ同等に推移するが、12月以降株間及び畝肩に比べて多くなる（図3）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 露地ナスは畝幅 150cm、株間 50cm、V字3本仕立て、促成ナスは畝幅 180cm、株間 80cm、V字4本仕立てで栽培した結果である。
2. 天敵温存植物の畝端への植栽は、露地ナス、促成ナスとも、天敵温存植物をナスの株から 50cm 離して行ったものである。
3. ナス圃場でスイートアリッサムやスカエボラを利用する場合、畝端のみの植栽では温存効果が発揮できる範囲が限定的となるため、ハウスの形状やナスの仕立て方法等を考慮しながらできる限り日当たりの良い場所にも植栽する必要がある。また、露地栽培ではナス圃場周囲への植栽でも温存効果が期待できる。
4. 天敵温存植物の植栽密度等については、「代替餌を活用した飛ばないナミテントウ技術マニュアル（施設ナス栽培編）」を参照する。



# [具体的データ]

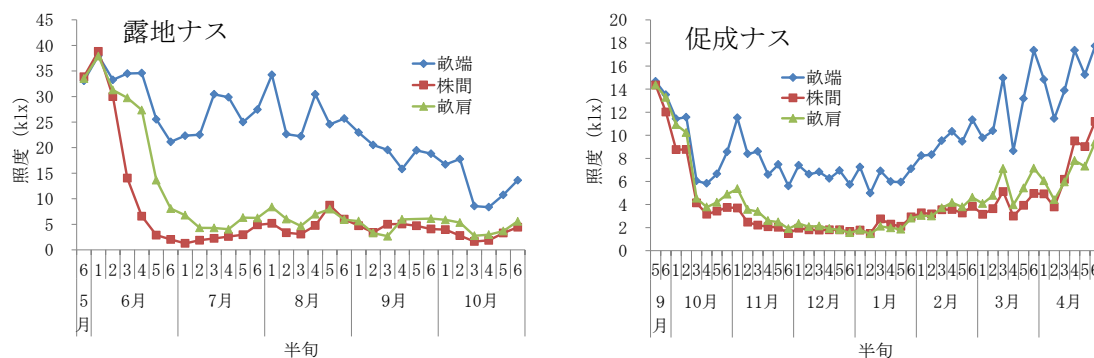


図 1 露地及び促成ナス圃場における植栽位置が照度に及ぼす影響（2017 年）

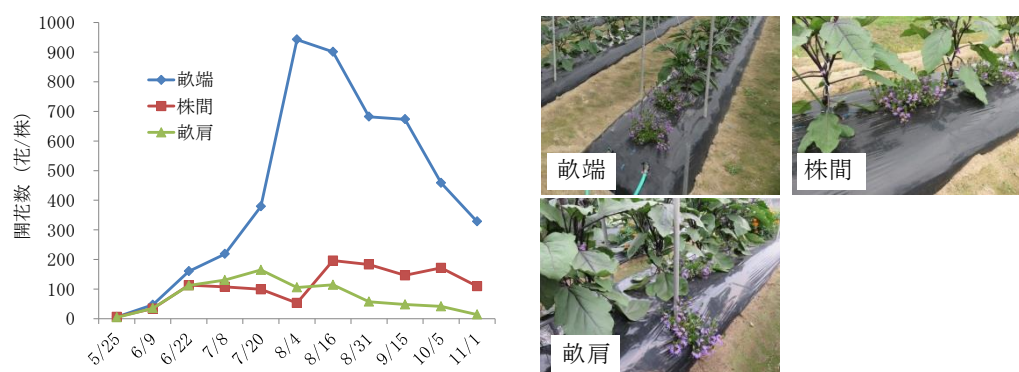


図 2 露地ナス圃場におけるスカエボラの植栽位置が開花数に及ぼす影響

注) スカエボラ：2017 年 5 月 24 日定植

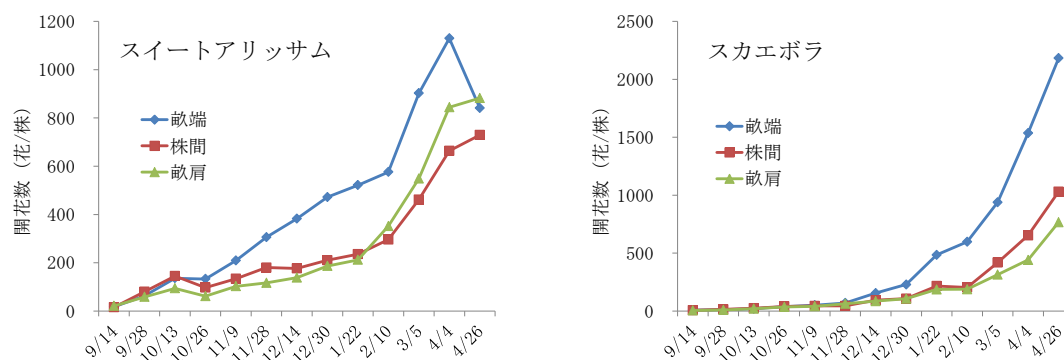


図 3 促成ナス圃場におけるスイートアリッサム及びスカエボラの植栽位置が開花数に及ぼす影響

注) スイートアリッサム、スカエボラ：2017 年 9 月 14 日定植

# [その他]

研究課題名：天敵温存植物を使った植生管理技術によるトバテン保護システムの確立

予算区分：受託（イノベーション創出強化研究推進事業）

研究期間：2016～2018 年度

研究担当者：綱島健司、槇野祐子

関連情報等：1) [平成 20 年度試験研究主要成果、37-38、39-40](#)

2) [平成 26 年度試験研究主要成果、53-54](#)

3) [平成 30 年度試験研究主要成果、57-58](#)